

第4章 課題の抽出

■宇陀市の現状

(1) 加速度的に進行する高齢化への対応、就労や結婚・子育てを行う若年層の流出の抑制

- ・宇陀市の総人口は、年々減少を続け、ピークであった4.2万人(平成7年)から、平成47年には2.2万人に、約半減すると予測されている。
- ・人口の減少とあわせて、高齢化の進行も顕著となっている。
- ・人口の転出入を年齢別にみると、20歳代から30歳代前半までの、“就労を始める世代”の流出が顕著で、逆に高齢者は若干だが流入超過の状況にある。
- ・宇陀市から人口が転出するきっかけとしては、「結婚」「就職・転職」が高い割合を占めている。
- ・人口の移動に着目すると、桜井市、橿原市、奈良市など、市西部への転出が多く、流入は、桜井市等のほか、近隣の曽爾村、東吉野村などの奈良県東部地域からの流入がみられる。

- ・加速度的に進行する高齢化・人口減少に向けて、これらに歯止めをかけるまちづくりが求められています。
- ・就労や結婚・子育てを行う若年層の流出に歯止めをかけるため、これら若い世代にマッチした生活環境の充実、高齢者が安心して暮らせる環境づくりが必要です。

(2) 日常生活を支える公共公益サービス機能の維持・拡充

- ・都市構造の評価を、さまざまな指標(「都市構造の評価に関するハンドブック」に基づくレーダーチャート)で見ると、近畿圏の自治体、奈良県内の自治体と比べて、全般的に低いサービスレベルにある。
- ・特に、医療、福祉・保育、商業の利用圏域の人口密度の低さが顕著であり、日常的な利用者によるこれらの施設の十分な利用を見込むことが難しい状況である。
- ・転入者からは、「交通の不便性」「買い物の不便性」に強く不満を感じていることがうかがえる。
- ・高齢者の外出率の低さも特徴的である。
- ・公共公益施設は、榛原地域に集中的に立地しており、比較的立地がみられる大宇陀地域を除けば、これらのサービス施設の分布は非常に少ない状況にある。

- ・日常的なサービスを維持していくためには、都市機能や居住のゆるやかな誘導が求められています。
- ・居住者の視点からは、日常的な生活に必要なサービスを確保し、不便なく、健康的に生活していく環境を構築していくことが必要です。
- ・こうした施策を講じることで、「転出者の抑制」「転出者のUターン」を促していくことが求められています。

(3) 奈良県東部の生活拠点としての位置づけ

- ・宇陀市周辺の奈良県東部には、大きな都市がなく、榛原地域は、奈良県都市計画区域マスタープランにおいて、県の東部地域において唯一“主要生活拠点”に設定されている。
- ・榛原駅周辺には、宇陀市役所や市立病院をはじめとする多くの公共公益施設が立地している。
- ・交通基盤の面からは、特急停車駅(榛原駅)を有し、東西(大阪方面、三重方面)とのアクセス性に優れている。また、市内の路線バスのターミナル機能を有している。
- ・榛原地域においても人口の減少や高齢化の進行、空き家の増加等が見られる。



奈良県都市計画区域全体の将来都市構造のイメージ図(奈良県区域マス)

- ・榛原地域においては、交通基盤や公共公益施設の多くの立地などがありながら、人口減少・高齢化が進むなど、そのポテンシャルを活かせていない現状にあります。
- ・宇陀市、ひいては奈良県東部地域を牽引する拠点性を確立することが必要です。

(4) 公共交通サービスの維持・拡充

- ・宇陀市内には、公共交通空白地が分布している。
- ・アクセシビリティ分析から、公共交通を利用した外出に相当な時間を要していることが明らかとなった。
- ・こうした状況から、多くの人々が自動車に過度に依存した生活を強いられている現状にあるといえる。

- ・今後進行する高齢化により、将来的に自動車を運転できない人が増加することが懸念されています。
- ・宇陀市では、他の都市と比べて“外出率の低さ”が特徴的ですが、自動車を運転できない人の増加は、外出率の低下に拍車をかけると予測され、健康的に生活できる環境を阻害する要因になることが懸念されています。
- ・将来、自動車に過度に依存しない移動環境を確立するため、公共交通を中心とする移動環境の向上が必要です。

■課題の抽出**①人口減少・若者世代の流出・超高齢化に関する課題****加速度的に進行する高齢化、就労や結婚・子育てを行う若年層の流出**

- 高齢化・人口減少に対して、歯止めをかけるまちづくり
- 若年層の流出に歯止めをかけるため、若い世代にマッチした生活環境の充実、高齢者が安心して暮らせる環境づくり

②公共公益サービスに関する課題**日常生活を支える公共公益サービス機能の存続に向けた集約化**

- 日常的なサービスを維持していくための都市機能や居住の集約化に向けたゆるやかな誘導
- 日常的な生活に必要なサービスを確保し、不便なく健康的に生活していく環境の構築
- これら施策の実施により、転出者の抑制、転出者のUターンの促進

③奈良県の東部地域の拠点性に関する課題**奈良県東部の生活拠点性が不十分**

- 榛原地域における、交通基盤や公共公益施設の多くの立地のポテンシャルの活用
- 宇陀市、奈良県東部地域を牽引する拠点性の確立

④公共交通サービスに関する課題**存続が危ぶまれる公共交通サービス**

- 自動車に過度に依存しない移動環境を確立するための、公共交通を中心とする移動環境の向上
- 地域特性に対応した公共交通サービスの運行形態・仕組みの見直し・改善